

井げたの組み方

1 材料について

- ① プレス棒・・・井げたを組む丸太
- ② 割木（雑木）・・・井げたの中で燃やすマキ
- ③ コワ（スギ・ヒノキ等）・・・割って使う焚きつけ用のマキ
- ④ 灯油・・・5リットル単位で用意します。
- ⑤ ポロ布（導火線用）
- ⑥ 新聞紙（朝刊分）

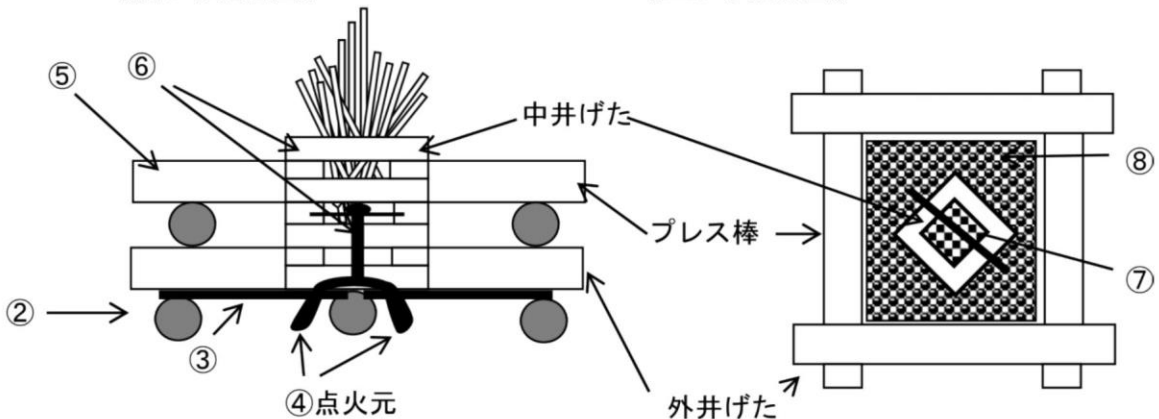
※2時間実施する場合の目安 → プレス棒9本、割木15束、コワ1束、灯油1缶（5ℓ）
※⑤⑥は持参してください。

2 井げたの組み方(トーチ棒で点火をする場合)

- ① 井げたの中心部をスコップで軽く掘ります。
- ② プレス棒を3本置きます。
- ③ ②のプレス棒に割木で敷き床を作ります。
- ④ 敷き床の真ん中の割木に、火種となる灯油を湿らした布を巻きつけ、先端を垂らしておきます。
※点火元となるため、トーチ棒が届くよう布を垂らします。
- ⑤ プレス棒で井げたを何段かに組みます。 ※プレス棒9本の場合は4段
- ⑥ 井げたの中に、割木で中井げたを組みます。
(中段に火種となる灯油を湿らせた布を垂らします)
- ⑦ ⑥の中にナタで細かくしたコワを詰めます。(つめすぎないようにしましょう)
- ⑧ 中井げたの廻りに割木を立てて詰めます。
- ⑨ 必要であれば、全体に灯油をかけます。
※職員の指導が必要な場合は、事前にお申し出ください。

【横から見た図】

【上から見た図】



3 21時完全消火

キャンプファイヤーの消火は21時までとなります。消火するまでの間は、消火担当の方は絶対にその場を離れないようにお願いします。また、時間の遅れが無いよう、余裕を持って計画をしてください。

※キャンプファイヤー終了から完全消火までに、30分程度かかります。

- ① キャンプファイヤー終了後、ファイヤー場の電灯をつけます。
- ② プレス棒を下ろし、ホースで井げたの火を消します。
※井げたの熱でホースを溶かさないように注意してください。
- ③ 消火したプレス棒を広げます。

- ④ スコップで混ぜながら、燃え残りが無いように火を消します。
※水をかけすぎると、翌日の片付けが大変になるため最小限にしてください。
- ⑤ 使用した道具については、リヤカーに片付けます。
※リヤカーは、ファイヤー場においておいてください。
- ⑥ 電灯を消し、21時までに事務所まで消火完了を報告してください。
※使用したマキ等の束を数え、マキ伝票に記入して食堂に提出してください。

4 片付け（翌朝）

キャンプファイヤーの翌朝に、ファイヤー場の片付けをします。

- ① 燃え残ったプレス棒を残プレス棒置き場へ移動します。
※各ファイヤー場の新品プレス棒が置いてある横が、残プレス棒置き場です。
- ② 残炭を各ファイヤー場の残炭捨て場に捨てます。
※残炭と一緒にファイヤー場の土を捨てないように注意してください。
- ③ 竹ぼうきを使い、ファイヤー場をならしておきます。
- ④ マキをしばっている針金（タガ）は、リヤカーに乗せておいてください。
- ⑤ 使用した道具（スコップ等）が汚れていれば、水で洗い流して、リヤカーに乗せておいてください。

5 キャンプカウンセラーへのファイヤー要請について

キャンプカウンセラーに、利用団体が行うキャンプファイヤーの運営を有料で依頼することができます。要請をしますと、エールマスター、ファイヤーキーパー、井げた組み、火文字、ファイヤーロード、トワリング（火の舞）などを行います。ただし、日帰り要請の場合の片付けは、利用者様で行う必要があります。

詳しくは、キャンプカウンセラー活動の案内が事務所にありますので、お問い合わせください。

点火方法

キャンプファイヤーを効果的に盛り上げるひとつの方法として、点火を工夫する方法があります。山の神様により神秘的かつ厳肅な雰囲気につつまれた中、あっと驚く点火により場を盛り上げてみましょう。ここではセンターで行う代表的な2つの方法を取り上げてみました。

1 トーチ棒で点火

もっともポピュラーな点火方法です。山の神様となる人が、井げたの底にトーチの火を入れて行います。子供たちに分火して数人で行うこともできます。この方法は確実に火をつけることができるので、心配な方にはお勧めです。

※点火後はトーチ棒を消火し、キャンプファイヤー終了時にトーチ棒置き場に置いてください。

2 滑車点火（火矢による点火）

- ① 滑車のスタート地点（斜面上のスギの木）と井げたの間に針金（14番）を通します。
（井げたの点火点にペグを打ち込み固定）
※針金に折れ曲がり等ができると、滑車を止める原因になります。
- ② 井げたの土台を組むときに、滑車の矢先と点火点が合うようにテストをします。
- ③ 井げたを組みます。

※この点火方法ができるファイヤー場は、第2ファイヤー場です。

（第1ファイヤー場では屋根があるため不可、第3ファイヤー場では木が遠いため不可）



キャンドルファイヤー

室内で行うキャンプファイヤーのひとつです。主にセンターでは雨天時や冬に行います。小さいローソクの炎がかもしだす神秘的な雰囲気と、楽しいゲームで盛り上がります。

1 準備するもの

- ・ローソク 大（16cm程度）、小（8cm程度）
- ・アルミホイル など

2 センターで実施できる場所

体育館

3 センターの貸出物品

- ・ローソク台

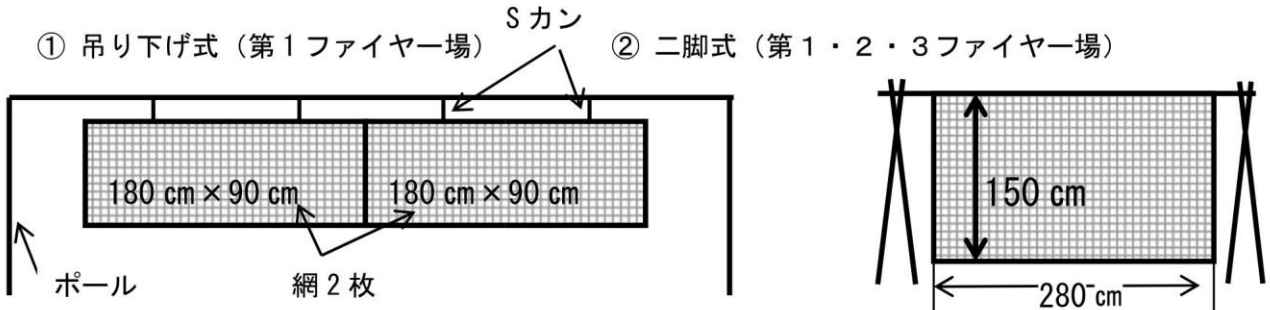
火文字

キャンプファイヤーのラストを締めくくると、火文字を見つめながら、楽しかった出来事を思い出して、友情を深めてみてはいかがでしょうか。センターには各ファイヤー場に火文字用のポールが設置できます。

1 準備するもの

・ペンチ ・細い針金（20番） ・荒縄（2分5厘）※文字や絵等の本体に使用する。

2 センターの火文字用ポール（吊り下げ式）



吊り下げ式は網2枚を横向きで吊り下げますので、真ん中には文字がかからないようにしてください。

（1枚ずつ文字をつけてください）1枚のみの使用も可能です。

※網・二脚はファイヤー倉庫横にありますので、使用するファイヤー場まで運んでください。

3 手順（センターの網を使用する場合）

- ① 文字を作る荒縄を灯油に浸けておきます。
- ② 網に文字等を細い針金で固定します。
※あまり細かく固定すると、後片付けが大変です。
- ③ Sカンを網の上部に取り付け、ポールに掛けます。（1枚ずつ）
※二脚式の場合は、二脚で支える。
- ④ 灯油が乾くと燃えが悪いので、必要があればファイヤー直前にママレモンの容器を使って、再度灯油で湿らせます。
※火をつける時は、下からつけましょう。



4 消火（当日）・片付け（翌朝）

- ① ファイヤー終了時に燃え残りが無いよう、水バケツまたはホースにより消火します。
- ② グランドシートの上にネットを下ろして、縄を取ります。
- ③ 縄と針金を集めておきます。
※上記については、持ち帰りのゴミとなります。残炭捨て場には捨てないでください。
- ④ グランドシート、ネット、二脚を片付けます。
※上記②以降の片付けについては、翌朝のファイヤーの片付け時に行ってください。ただし、当日のファイヤーの消火、ロード缶の回収等が終了した時点で、21時まで時間に余裕がある場合は、当日火文字の片付けを行ってもかまいません。

ファイヤーロード

キャンプファイヤーの終わった帰り道をファイヤーロード（火の道）で幻想的に演出してみたいかでしょうか。

1 準備するもの

布（15cm 四方） ※缶の数以上ご用意ください。

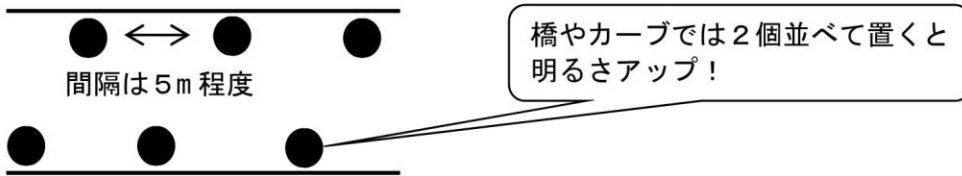
2 センターの貸出物品

ファイヤーロード缶（数に限りがあります） ・バケツ等
※灯油（5リットル）、トーチ棒は注文可能

3 手順

- ① 布を灯油に浸しておきます。
- ② ロード缶を並べます。
- ③ 灯油に浸した布を入れていきます。
※布は山になるように缶に入れると、点火がしやすくなります。
- ④ 点火します。

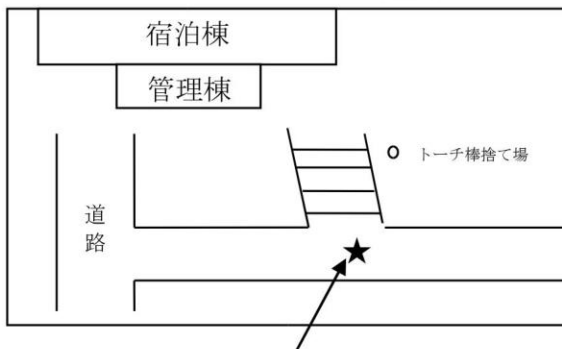
★置き方例



4 消火（当日）・片付け（当日）

- ① ファイヤー終了時に燃え残りが無いよう、2重の軍手またはかわ手袋をして、ロード缶に蓋をするようにしながら消火します。
- ② 消火した布を消火バケツに、ロード缶を貸出した一斗缶に全て回収します。
※回収し忘れないように、翌日の片付けの際に確認をおこなってください。
- ③ 布については、持ち帰りのゴミとなります。残炭捨て場には捨てないでください。
※ロード缶の片付けについては、ファイヤー消火と合わせて当日の21時までに完了させてください。

★ファイヤーロードコースと制限について



※ロード缶はここまでにしてください。

（道路は車も通りますので、缶を踏む原因になります。建物付近には重油タンクがあり火気厳禁となっています）